

大臣 第九號

次

十月廿五日

經理 警務 直

陸軍

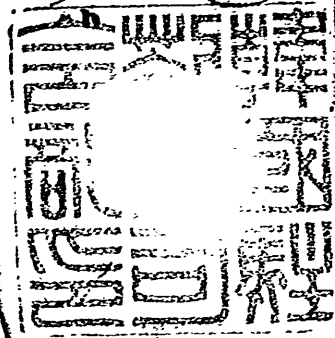
陸軍

閣 明治三十年九月廿一日

九月廿五日

陸軍省 密受第三三九號

陸軍省 密受第三三九號



出五

二日

1690

1689

別冊

第九號

大臣

次官

十月廿日

給

警務

經理

直

表

里

陸

軍

軍務

去保

人事

夕

編

生

恩

贈

目

院

院

院

院

院

院

別冊八月分韓國駐劄軍隊報告及違違儀也

陸軍省

御中

明治四十年九月二十日

第十三師團司令部

第十三師團司令部

陸軍省第三三三號

陸軍省第七一號

九月廿七日

陸軍省第八八號

陸軍省三三六號

副丙第二五二

號

陸軍省

陸軍省

明治四十年八月分

韓國駐劄軍隊報告

第十三師團司令部



歩兵第四十九聯隊

鏡城駐屯會

八月軍隊報告

一、軍隊勤務

イ、守備隊ノ異動

異動ナシ

ロ、部隊特別ノ目的ヲ以テ為シタル行動

特記スベキ件ナシ

ハ、警備上取リタル所置

韓皇讓位事變ニ付各守備隊共衛兵ヲ倍加シ且ツ巡察ヲ頻繁ナラシメテ荷物護衛兵等ニ實包



1693

ヲ携行セシム

三



二、衛生

本月新患者総数(第二天隊ヲ欠)六九名ニテ平均一日現在患者三六三九其人^総員ニ對スルハ今比例ハ四三九〇ナリ之ヲ前月ニ比スレバ著シク増加ヲホシ五月以降最多數ニ上リ又第二天隊ハ本月ノ新患者総數三七名ニシテ前月ニ比シ著シク増加セリ

病種ノ重ナルモノハ急性胃腸加答見^見ニラリヤレ急性氣管又加答見トス鏡城會寮ニ於テ瘡ヲ發生セシ腸室杖斯ハ爾後新發生ヲ見ズ清津ニ於テ該患者發生シタルモ經過良好ニシテ漫延ノ憂ナシ

胃腸病及呼吸病ノ原因ハ夜間氣温ノ劇降ニ依ル感

冒及勤務勞働ノ繁劇ノ為ノ湯ガ

ラシ

「マラリア」ニ関シテハ未ダ其媒介者タルモノヲ見テハ

ヲ見ガ

各埠備地共清潔法ヲ所行シタル結果大ニ其度ヲ進

メタリ土民ニ於テモ亦鋭意清潔法ヲ實施シテハ清淨

ニ於テ土民間ニ「マラリア」患者一ニ名亦生ゼシヲ以テ散歩

區域ヲ限定セリ

門司ニ於ケル虎列拉病毒侵入ヲ防カンガ為メ軍々

医部長ノ命ニ依リ鏡城駐劄衛戍病院鏡城分

院ヲ軍用船入港毎ニ軍醫ヲ派遣シ軍人及軍

属ノ健康診断ヲ施行シツアリ地方官ニ於テモ亦便宜
 上軍醫ニ囑托シテ地方人ノ健康診断ヲ施行スル事ト

セリ

下士以下ニ對シテハ食器ノ清潔團廁塵溜所ノ掃
 除ヲ勵行セシメ夏期ニ於ケル衛生並ニ虎列拉豫防
 法等ノ講話ヲ實施シツアリ又衛生委員ハ屢々宿
 營地巡視ヲナシ鏡意惡病ノ發生ヲ豫防シツアリ

陸

軍

三、經理

イ、種株事項

待記スベキ件ナシ

ロ、被服事項

待記スベキ件ナシ

ハ、金銭事項

銅ノ價格非常ニ低落シタルニ拘ラズ葉錢ノ歩合依然ニ割ヲ持續シ土人ノ物資購買ニ付テハ前月報同様不利ノ状況ニアリ

ニ、營繕事項

前月報ノ外待記スベキ件ナシ

陸

尾

四、駐劄地方現況

人、氣候及交通路

氣候ハ本月ニ至リ温度上昇シ鏡城附近ニテハ
 最高攝氏三七。最低二〇。平均二五。六ヲ示シ
 茂山附近ニ於テテハ最高三五。最低一六。〇ヲ示
 セリ晴天日數ハ一月ノ約半數ニ達セシモ下旬ニ於テ
 激雨頻ニ至リ朝夕ノ氣温頗ニ低下スルニ至
 レリ

交通路ハ八月下旬ニ於テ激雨頻繁ナリシ為テ所々小
 破損ヲモシモ目下修理ヲ終ル良好ナル状態ニ改復セリ

口 地方ノ情況

韓國時局ニ對スル韓國官民ノ能心度ハ各地
共靜穩ナリ

一鏡城附近

皇帝ノ讓位侍衛隊ノ暴動等ノ事件ハ最
初官憲等ノシ僅ニ其大要ヲ知リ唯奇異ノ
感ヲ以テ之ヲ迎ヘタルモノノ如クナリシガ其後新協
約ノ大要及南部ノ暴動ハ中流以上ノ韓民
ハ概テ之ヲ聞知シテ往々密會等ヲシテ國
事ヲ談スルトノ風評アリ今日迄其事事實ヲ
認ムル能ハズ

去ル八月廿七日觀察使ハ新帝即位式祝賀會

ヲ催シ學校生徒モ亦軍歌ヲ奏シ萬歳ヲ三呼セ
リ然レモ人民ハ靜穩ニシテ國旗ヲ軒頭ニ飾リシ
ミミシテ關セザルモノノ如クナリキ

一 般ニ官民共ニ其業務ニ服スルノ平常ト異ルナシ
七班洞水南附近ニ於テハ農民ナルヲ以テ何等
閑知セザルガ如ク其狀態心平日ト異タルナシ

二 清津附近

目下民衆撤去ノ為メ他事ヲ顧ル暇ナキナリ如ク

靜穩ニシテ注意スベキ情況ヲ認メス
官用ヲ買收セシ屯兵隊ヲ

三 富居附近

守備隊ナキガ為メ詳細ノ情況ヲ知ルノ能ハスト虽

旅行者並・偵察者ノ言ニ見モ生業ニ就テ何
等平日ト異ル所ナキガ如シ

四、輸城附近

最初事変ヲ知ルモノ少カリシが目下一般人民之ヲ
知得シタリ然レモ悲憤慨ノ色アルヲ認メス

五、富寧附近

輸城附近ニ同シ人民ノ使役ニ際シテモ亦其態招
平日ノ如ク何等異状ヲ認メス

當地郡守ハ従来稍排日ノ意思ハ抱ケルヤノ感
アリタリ今回辞表ヲ呈出し京城ニ向テ去レリ然レモ
今回ノ事変ニ関シタルヤ否ヤハ不明ナリ其聲明

スル所ハ家政整理ト療養トナリ

六、茂山附近

一、概ノ状態各等備地ニ同シ

八月上旬一進會員三名茂山ニ於テ等荏阿ノ陋態

ヲ一洗シ速ニ文明進化ヲ促スノ演説ヲナシタルモ官

吏ノ非行ヲ摘發シタル為メ及テ自己ノ非行ヲ面

責セラレ直ニ茂山ヲ退去セリ

新協約ニ就テ人民ノ意向ハ日本人ノ進入ヲ憂

フルモノ又ハ諸事公平トナルベキヲ豫期スルモノアリテ

一、是セズ

七、會寧附近

壘

匣

目下一般ニ事変協約ハ詳細ニ知悉スルニ至レリ然レ
 此之が為ノ慷慨作覺レテ事ヲ計セントスル志士儒生
 ノ如キモノヲ認メス八月廿七日ハ鏡城同様即位式
 祝賀會ヲ催シ府民ハ國旗ヲ軒頭ニ飾リ
 歡呼シ學校生徒ハ隊ヲナシ國歌ヲ奏シテ府
 中ヲ徘徊セリ
 北青鎮衛大隊ヲ分遣セラレベキ行營鎮衛隊
 ノ設置ハ將ニ編成セラレントレテ解散ニ遭遇シ九
 月一日ヲ以テ下士以下全部解散ラ了レリ之ニ就テ
 亦亦靜穏ニシテ將來ニ於テモ事ヲ舉グルが如キ形勢ヲ
 認メ一進會員モ亦格別ノ行動ヲ企圖シタリ

西ヤスルニ普通常識ノ判断ヲ以テスレバ識者ハ内心幾分ノ不滿アルハ免レザル所ナルベシ然レモ比岸備隊ノ威嚴ニ恐ルトト事ヲ舉クルガ如キ氣力ヲ有セザルニ依ルナラシ一般人民ハ個人主義ノ結果唯生業ニ忠ニシテノ國家ノ何タルヤニ關セサルガ如シハ驛擾異変

以上ノ如クナルヲ以テ此後例令ニ三ノ煽動アルモ之ニ雷動シテ事ヲ舉ケントスルガ如キ形跡ハ之ヲ認ケル能ハス

右及報告候也

明治四十年八月三十日

步兵第百九聯隊長 太田 朝

印

步兵第百九聯隊長

明治三十年八月軍隊報告

歩兵第五十聯隊 (北青屯在)

一 軍隊勤務

八月一日藤井中尉以下十五名ヲ永興ニ増派ス

八月六日第四中隊ヲ光自洞東幕洞附近 (元山西南方約三里)ニ行軍

セシニ此附近一帯ニ平穩ナリ

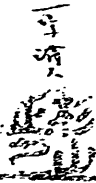
今日文坪里及永登附近 (元山北方約三里)ニ行軍セシム前項同様平穩ナリ

八月七日第一中隊ヲ洪原郡洪原ニ行軍セシム十日該中隊ハ北

青ニ歸着セリ洪原地方一般ニ靜穩ナリ

陸

軍



八月八日第五中隊ヲ利原郡利原ノ行軍セシム十日該中隊ハ北青
ニ歸着セリ利原地方一般ニ靜穩ナリ

八月十日軍司令官ヨリ次ノ要旨ノ電報奉在アリ

一、江陵（江原道東海岸）附近暴徒起リ郵便送人殺害セラシ

形勢不穩ナリ

二、貴官ハ元山守備隊ヨリ速カニ一中隊ヲ派遣シ江陵附近ノ暴

徒ヲ鎮壓セシムベシ

三、該中隊ハ元山ヨリ船舶輸送ヲナシ江陵附近適宜ノ地ニ上陸

セシムベシ其輸送ニ就テハ元山運輸部ト交渉シ又ハ高野

ヲ佐ヨリテ葛城艦長ト協議シ爲シ得シハ同艦艦ニ便乗

セシムベシ（中畧）上陸後ノ諸報告ハ直接ニ出サシムベシ



五、高野少佐ハ諸準備ヲナスバ、通報シ置ケリ

右ノ命令、基キ電報ヨリ以テ在元山高野少佐ニ命令ヲ発セリ是

ヨリ先キ高野少佐ハ師団命令ヲ受領シ、第十中隊ヲ葛城ニ便棄セ

シ、二十日江陵ニ向ケ出發セシム、該中隊ハ二十日午前九時海軍陸戰

隊ト共ニ南大川河口ニ上陸シ江陵ヲ占領セリ

十九日在元山高野少佐ヨリ次ノ電報ハ告ヲ受領ス

十九日軍司令部命令ノ要旨、賊ハ十五日頃、漸次南方ニ移リ

寧靜、堤川方面ニ現在スル者ノ如シ、下林大隊ハ十六日平昌着

田中中隊ト連絡セリ、安達支隊ハ二十日忠州ニ着スル筈、安東

ニ在ル歩兵第十四聯隊ノ西側中隊ハ主力ヲ以テ榮川ニ一部ヲ

以テ奉化ヨリ三陟ニ通スル道路上古直嶺附近ニ派遣スル筈、元山

陸

軍

守備隊より中隊ヲ三階附近、上陸セシノ旌善附近ニ派遣セヨ
 右ノ命令ニ依リ二十日守津江中隊、機関銃二ツ附シ派遣
 スル筈

二十日第四中隊タテ守津江 中隊ハ扇海丸ニテ出帆シ二十日午後五
 時上陸 六時三十分ニ陸ヲ占領ス

八月二十日 元山守備隊ヨリ服田少尉以下三十一名小澤軍医ヲ附シ
 向ケ出帆セシムル電報口告ヲ得タリ

二、衛生

本月間 患者総數 四八名内旧患六名新患四十二名ニテ内治癒セシ
 モ三十八名 死亡一名他ハ後遺トス

新患中 稍多數ヲ占ムルハ胃腸病及麻刺里丑ニテ甲八十八

一軍
訓除



名てハ七名ナリ胃傷病ハ主トシテ補充員ト多シト雖モ漸次
 氣候風土ノ慣ルト個人衛生心ノ發達ニ全カヲ注キタルノ結
 果前月ニ比シ優ハ半数ノ減少ヲ見ルニ至リ麻刺里豆集心
 者ノ發生ニ際シテハ速ニ離法ヲ施シ蚊帳ヲ用ヒテ蚊蠅
 ヲ避ケ傍ヲ蚊屬ノ撲滅ヲ図リ以テ新ハ病毒ノ散布ヲ防
 ケリ死亡ハ第五中隊軍曹永田晋一郎居山方遣甯長トシテ
 出張中本月六日病症危篤ノ旨急報ニ接シタルヲ以テ直ニ軍
 医ヲテ急行セシメタリ病症急性膨充ニ至リテ軍医同哨ニ到
 着スヤ直ニ應急ノ處置ヲ施シタル時既ニ重症ニ陥リ諸名
 法効ナク遂ニ不幸ノ転歸ヲ取ルニ至リシ者トス
 本月間傳染病及流行病ヲ認メズ

陸

軍

三、經理

現地調査品ノ状況 糧食品格納保管ノ状況 炊爨ノ状況 營繕事項共々前月報ニ同シ

四、駐劄地方ノ現況

八月日北青鎮戡隊ニル彈藥悉皆ヲ引キ上テ之ヲ北青聯隊本部圍郭内倉庫ニ格納シテ其彈數左ノ如シ

一 グラー 銃彈 一 万九千五百五十發

一 半モーセル 銃彈 一 万五千三百七十三發

一 完モーセル 銃彈 二 万。百八十發

一 ハロン 銃彈 七千四百三十二發

計 六万二千一百三十五發

八月二十六日在咸興ナル鎮戩隊ハ無事解散ヲ了セリ

前月軍隊報告ヲ以テ報告セシカ如ク利原郡ハ郡守政務ヲ見

ズ人民ハ閑居ノ業ヲ止ムルノ報ヲ得タリ以テ郡守ヲ北青ニ招

致シ之ニ訓諭ヲ與ハ該郡守既郡後一般ニ訓告シ其後

平常ノ如ク其生業ニ從事セリ

洪原郡守ハ八月十日ヲ以テ北青ニ召致セリ依テ之ニ時局ニ関スル

心得ヲ訓示シ郡民一般ニ其堵々安ジテ其職業ニ從事スル

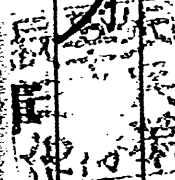
ヲ諭サシメタリ

右及報告候也

明治四十年九月五日

歩兵第五十聯隊長 山本延身

陸



步兵第五聯隊（京城駐屯）

八月軍隊報告

一 軍隊勤務

一、各地派遣中備隊

前月報告通り、但春川、忠州ハ本項記載ノ通り増加セリ、

口京城事變ニ関シ特ニ設置セリ夕八中隊及備隊及備隊衛兵

一 布徳門中備隊ハ八月十六日ヨリ一中隊ヲ以テ服務ス

二 小廣橋衛兵ハ八月七日ヨリ撤去ス

三 西門衛兵 下士以下十名

四 照義門衛兵 同右

五 南大門衛兵 下士以下六名



六南大門停車場衛兵 下士以下六名

七控兵 軍司令部梅田
夜置スルキ ハ 八月十五日ヨリ撤去ス

八常置、衛戍衛兵

前月報告ノ通り

但統監官部衛兵ハ八月十日ヨリ時撤去シテリ

二郵便護衛兵

前月報告ノ通り

六部下軍隊ノ移動及配置

一八月七日蘆澤大尉ノ率テ二小队(其内中隊内)ハ下林大隊ニ輸送スルキ

程ヲ護衛ニ任ラレ高城出發利川ヲ経テ同十九日忠州ニ着其目的ヲ達

シ爾後忠州附近ノ守備ニ殿ス

二十八日提川方面暴徒討伐、為ノ芽天隊(本部ノ芽天隊二小隊也)機

關鉄四門ハ足連支隊ニ編合セシメ京城出發烏敷院清洲ヲ経テ同

主日忠洲ニ着爾後該方面ノ討伐ニ從事ス

二十八日境澤大尉率六一小隊(苗中隊内)ハ春川準備隊ヲ増加シ洪川

附近進出ス、自的ニ以テ京城出發清平川ヲ経テ同日春川ニ着

爾後該地附近ノ準備ニ服ス

四八月三日忠洲ヲ發シ京城ニ返還ス、キ下士以下八名ハ梨浦附近於テ

暴徒襲撃ヲ受ケ右ノ戦死者ヲ出シタルモ他ハ遂ニ危界ヲ脱シ

二十七日京城ニ返着セリ

五八月十八日中村少尉率六一小隊(芽天隊)ハ京城忠州間電線

修理ノ護衛ホシ地方暴徒討伐、為シ京城出發二十日利川ニ着シ

爾後任務ヲ遂行中

六重城春川間電信線修理ノ護衛トシテ岩本少尉ノ率ニシテ

半小隊(下士等千名)八八日京城ヲ出發セリ

陸 軍

二 衛生

一 隊兵健康度ハ本月間各地ニ分遣増加並ニ討伐隊ヲ派遣セシ其後
 何等ノ通報ナキ為ニ詳カナラサルニ由リ茲ニ當京城ニ於テ(第1隊欠)癸
 生ニ久舊新患者ニ就キ之ヲ言ハ其總數ハ百四十七名内舊患四十二名
 新患九十八名此總治療日數一千八十日一日平均現在患者三十三
 八名八十四人員毎千平均一日現在患者三十九名九八ノ比例ナリ
 本月發生セシ新患者ヲ病類系統的ニ區別スルハ全身病六十
 五名呼吸器病五名榮養器病十三名花柳病四名外被
 病三名外傷六名眼病一名神全系病一名計九十八名ニ先月
 ニ比スルハ先ニ稍減少セシモ全身病五名内麻刺里亞五十八名
 ノ多キニ連セシハ今面是處事件ニ関シ諸所ニ衛兵及警戒ニ任シ

防蚊方法モ意ノ如クナラハニ由ヘナラン

ニ地方傳染病ノ景況

夫間及本邦居留民間於テ既報ノ如ク赤痢、腸室扶斯、天

然痘等ノ諸病ハ散在性ニ流行シ四時殆ト其跡ヲ絶ソトナカハ

キモ就中目下甚ダシク多發セシモ之カ調査スル由ナシ

夫間及居留民間ニ在リテ目下麻刺里亞、腸室扶斯、赤痢、感冒

胃腸病等ナルモノ如シ

三防疫既報ノ如ク確實履行シテアリ

四天候晴天二十日曇天四日雨天五日ニテ氣温ノ最高

攝氏三十四度最低十八度風向ハ主トシテ西風ナリ風力ハ微風最

モ多ク軟風之ニ次ク

三 經理

一 暴徒騷擾以來警備又ハ行動爲メ出發或ハ荷物ノ輸送電線修理等ノ爲メ派遣セズ部隊ノ頻繁ナル爲メ經理事務ハ最モ錯雜セリ則チ糧食經理ニ就テ之ヲ言ハバ在任經理ニ屬スルモノアリ戰時給與ニ屬スルモノアリ旅費ヲ給スルモノアリ小夜食ヲ給スルモノト各ラガルモノトアリ又金錢經理ニ就テ之ヲ言ハバ部隊ノ出發スル毎ニ途中ノ所要ヲ辨セシムル爲メ在任官ヲ設ケ之ニ現金ヲ交附スルト同時ニ給與ノ方法諸證書ノ作製法トテ詳細指導セザル可ラザル等之レナリ

二 被服經理ハ其程度及整理共漸次良好ニ趣キツ、アルモ計伐部隊ニ屬スルモノハ勤務ノ敏急激ト補修材料等ノ追送困難ナルトヨリ大ニ破綻損廢ヲ生ジタルノ報告ニ接セリ

三、酒保及供給ハ分遣隊所要ノ今ノ事変以來交通ノ困難ト連
 極具、欠乏、爲ノ適當ノ時機ニ之ヲ神給スルヲ得ズ

四 駐劄地方ノ現況

一 七月五日夜煥發セシタル解兵ノ詔勅ハ八月一日午前八時頃各韓國軍隊(在京城)ニ傳達セシ同九時ヨリ訓練院練兵場ニ於テ解隊式ハ逐次行ハシモ獨リ侍衛步兵第一隊ニ聯隊ノ各第一大隊ハ勅ヲ奉セズシテ不穩ノ狀況ヲ呈シ遂ニ武器ヲ執リテ暴動ヲ敢テシ我隊兵官民ヲ射撃シ暴威ヲ逞ラスルニ至リ茲ニ於テ我隊第一大隊ハ敢兵鎮壓ノ命ヲ受ケ則チ午前九時三十分攻撃ヲ開始シ同十時四十分確美ニ之ヲ占領シ引續キ大搜索隊ヲ派遣シ潰兵ノ追撃ニ任ゼシノ全ク鎮壓ノ目的ヲ達成セリ此戦闘ニ於テ我隊死將校一以下ニ傷死一、負傷將校以下十九、爾後京城ハ日ヲ逐ニテ靜穩ニ服シ目下ニ於テ特記上スベキナキモ地方ニ在リテハ一日ニ不穩ノ景況ヲ來シ忠州守備隊長

右及報告候也

二宮少尉八月五日偵察自的以テ部下千名ヲ率ヒ原州方面ニ到リ
 シガ原州鎮衛隊ノ韓兵約二百五十名ハ暴徒ト党シ我官民ヲ襲撃
 シ以テ偵察隊ニ交戦ニ時間ノ後官民ヲ收容シ翌六日忠州ニ返
 着リ爾来暴徒ハ各所ニ蜂起シテ暴戾飽リナキ有様ナリ以テ原
 州、堤川、清風方面ニ討伐隊ヲ派遣セシタリ八月五日暴徒約
 二百、清風并、堤川方面ヨリ忠州ニ襲来シ該地ニ備隊ニ交戦
 ニ時間ノ後之ヲ撃退セリ其戦鬪ニ於テ輕傷者卒一名ヲ出セリ

明治四十年九月五日

步兵第壹聯隊長

横山

新山



明治四十年八月末日調軍隊報告

歩兵第五十二聯隊 (五十七)

一軍隊勤務

一部下軍隊配置、移動

八月十八日 第二中隊京城出發同廿一日忠州ニ進

出堤川附近ニ於テ暴徒鎮壓ニ從事シ同廿三日

一名、輕傷患者ヲ出セリ

八月十九日 第六中隊、一隊楚山分遣隊交代ノ

為メ義州出發同廿六日楚山着廿七日交代結了

前分遣隊ハ廿七日楚山出發三十日義州ニ帰着

セリ

三八月廿二日 第九中隊暴徒鎮壓ノ為メ京城出發廿三日揚根着廿四日揚根廣離間ニ於テ暴徒ヲ攻撃其五〇ヲ死傷セシメタリ同廿七日山地洞附近ニ於テ暴徒約四〇〇ヲ包圍攻撃シ之ヲ撃散シ其一〇〇ヲ死傷セシメタリ

四八月廿八日 第一中隊ハ第九中隊ニ連絡ノ為メ京城出發高安附近ニ至リ其目的ヲ達シ糧食ヲ第九中隊ニ送附シ其小隊ヲ高安ニ残置シ他ハ三十日歸隊セリ(一小隊高安守備ハ一週間ノ豫定)

五八月二十九日 第五中隊（小隊欠）ハ黃州ニ分遣
歩兵第四十七聯隊ヨリ派遣ノ該地守備隊ト

交代セリ

六八月二十九日 第三中隊ノ小隊定州ニ分遣歩兵
第四十七聯隊ヨリ該地ニ分遣シアル守備隊ト

交代セリ

七八月三十日 第五中隊ノ小隊鎮南浦ニ分遣歩
兵第四十七聯隊ヨリ派遣ノ該地守備隊ト交

代セリ

八八月中ニ於テ軍隊ノ移動以上ノ如キ情態ナリシ
ヲ以テ平時教育ハ殆ント之ヲ實施スル能ハサリシ

陸

軍

二 衛生

一 隊兵健康状態

本月ニ於ケル患者総數ハ八十一名ニシテ前月ニ比シ
増加セルハ地方擾乱ノ為メ傳染病散發シ各
地ニ於テ警戒勤務及繁劇ナル諸勤務ニ従事
セル結果ナラン

特記ス可キ患者左ノ如シ

京城派遣大隊ニ在テハ腸空扶斯患者一

麻刺里亞四

平壤屯在隊麻刺里亞一四

新義州屯在隊脚氣 六

義州屯在隊赤痢病二、

二、兵營兵舎ノ状況

京城派遣大隊ハ第十三師團司令部構内ヲ應用宿營ス舎内外共清潔ニシテ且ツ比較的廣濶ニシテ一人約一畳ノ面積ヲ占領シ換氣採光ハ稍不良ノ感アリ

定州、廣州ハ第十五師團引揚ト共ニ守備隊撤去セラレタル結果兵舎ニ應用セシ諸建築物ハ荒廢ニ屬セシヲ以テ目下ノ情態ニテハ冬營ヲナスニ適セズ依テ調査終了ヲ俟ツテ報告セントス

三、經理

特記不可キ事ナシ

右及報告候也

明治四十年九月四日

歩兵第五十二聯隊長 加藤



第四項追報可致候

臣

軍

八月 軍隊報告

騎兵第十七聯隊 (咸興駐屯) (第百零九)

一 軍隊勤務

當聯隊勤務狀況前報告通り今や初年兵第二期教育ヲ結了シ一般勤務ニ服シ居ルヲ以テ繁簡其度ヲ保テリ

本月十日ヨリ二十三日迄西湖津東南方約千五百米突ノ作島ニ出張シ水馬演習及野外演習ヲ施行セシラ以テ軍隊勤務教育等實地ニ於テ應用的動作ヲ實習スルコトヲ得タリ

ニ 衛生



隊兵健康状態

本日新患ハ統計一五名ニテ前月ニ比シ四名ヲ増加ス
 然レモ傳染病ハ名モナク脚氣モ亦完ク其跡ヲ絶テリ
 麻拉里亞ハ五名癩セシモ多クハ旧患ノ再癩ニテ漸
 次消失ノ傾向アリ胃腸病モ亦頗ル少シ但シ望骨
 神経痛助骨々瘍疑等ノ如キ複雑ナル患者ノ散
 癩ヲ見ル尚近視眼ノ為メ内地後送トナリモ一名アリ
 又本月隊兵体重ハ前月ニ比シ平均百三十三匁減
 量ヲ来セリ以上ノ事實ヲ添合スルハ本月ノ隊兵健
 康状態ハ概シテ前月ニ劣ルガ如キ是レ一ニ氣候
 ノ然ラシムル處ノ一試ニシ之ヲ昨年ノ本月ニ比セカ

頗ル良好ノ域ニアルヲ認ナン

只一般衛生状態

本月自十月至十月施行ノ作島出張諸演習ノ衛生上ノ

成績頗ル可良ニシテ只ニ著キ患者ヲ生セザルノ

ニナラス隊兵精神上多ク大慰安ヲ與ヘ莫氣ヲ鼓

舞セシガ如シ且ツ此機ヲ利用シ残留者ヲシテ宿營

地及宿舍ノ大清潔消毒ヲ施行セシメ又作島出

張者ニ野營中ノ衛生心得ヲ實地ニ就キテ教

育セリ

其他兵衣兵食給水排水等總テ善良ニシテ

掃浴理髮酒保除穢モ亦何等憂慮スヘキモ

ノ夕宿管地韓民衛生状態モ良好ナリ
要スルニ般衛生状態ハ頗ル可良ニテ顧慮スヘキ

モノナレ

三 經理

ハ精米割麦混用ハ前報告ノ通りトス

口副食物内陸軍倉庫現品給與ハ前報告ノ通りトス

トス

ハ生野菜ハ新野米稍發育ニ来リタルヲ以テ差支ナク
調弁ニ得ル本邦人ノ組織ニ係ル農業組合ヨリ
生野菜供給ニ就テ請願書ヲ出セリ依テ當隊ノ
需用ヲ充タシ得ルヤ否ヤニ付キ現地調査中ナリ

右組合ノ納品ニシテ品質分量及其納期ニ関シ
 差問ナク當隊ノ需用ニ應ジ得ラルレハ新鮮ニシテ
 幾分廉價ナモラ購買ニ得ルヲ以テ購買ス
 ル都合ナリ

二、魚類漁獲稍多ク各隊トモ作島西湖津内湖
 附近ニ於テ水馬漁習ヲ施行セシ爲メ其獲ル魚
 類ハ悉ク該地ニテ買上ケラレ咸興ニ未タルモノ極ナリ稀
 レナリシヲ以テ咸興残留部隊ニ在リテハ給與上幾
 分困難セシモ出発先キニ於テハ廉價ニシテ新鮮ナル
 モノヲ十分ニ購買ニ得ル當隊如キ毎日昼夕ノ
 二回ハ魚類ヲ供セザルハナク給養上頗ル便宜ナリ

ナリ但ニ野采^ノ練習地(作島)ニ於テ調糸ノ見込ナカリシヲ

以テ咸興ヨリ廻^ニ送セシメタリ

ホ鳥獸肉類^ノ前報告ノ通りトス

ハ調味品^ノ前報告ノ通りトス

ト馬糧中大麦、干草ハ西湖津ニ於テ陸軍倉庫及師

團經理部派出所ヨリ受領セリ藁四百拾五貫匁

(尅大目四匁)藁代用品トシテ麦稈貳千貳百七

拾四貫匁(尅大目)ニシテ給養上差支ナカリシナリ

四 駐劄地方現況

目下當地方前月ニ比シ降雨多ク爲ナニ宿營地甚

ク泥土不良、個所アリシモ専ラ排水ノ方法ヲ講ニ其

結果良好ニシテ諸所ヨリ流出セシ洶水ハ永ク一地ニ滯留スル事ナシ

砲兵隊宿营地ニテハ韓國鎮衛隊ハ本月二十日無事解散シ別ニ特記スヘキ事項ヲ認メス其後何レモ平穩ナリ

右及報告候也

明治四十年八月三十一日

騎兵第十七聯隊長 安東直康



騎兵第十七聯隊第三中隊 (駐牛毛清)

八月軍隊報告

一 軍隊勤務

一 七月廿一日より解兵事件為中隊、全部軍司令部構内ニ集合シ敬言或傳達等
勤務ニ服ス八月三日以後稍靜穩ニ服シタルヲ以テ將校ニ半小隊ヲ附シ殘置中隊ハ
駐屯地ニ歸還ス七日以降ハ十名、傳騎ノミヲ殘置ス

二 八月八日より十八日迄毎日下士或ハ上等兵ノ率元五乃至七騎ノ作候ヲ平壤元山奎山
諸街道上ニ派遣シ京城ヨリ五乃至十里ノ區域ヲ搜索セシム是等遠距離ノ作候
ハ何モ一泊乃至二泊ヲ費シ凡テ露營シ民家ヲ避ケタリ

三 十八日より將校ノ率元十二騎足達討伐支隊ニ屬シ目下尚引續キ派遣中

陸

軍



四日將校率志三騎廣州城内、大藥庫武器庫ヲ破壊シ尚電線架
設ニ兵ノ行衛不明者搜索、目的ヲ以テ利川ヨリ長洲院ニ成歡ニ方向ニ出張シ

廿九日歸還ス

五日將校率志十五騎揚根討伐隊ト連絡、為メ高安ニ派遣セシ九月廿日歸
還

六日三日特務曹長以下六騎利川方向派遣山田小隊ト連絡、為利川方向ニ派
遣同夜十一時歸還ス

上述ノ如ク前月元々頻々繁忙ヲ極メ之カ為上等兵候補者諸工卒教育ヲ開始スル
能ハス不巳得九月中旬ヨリ若干開始、豫定亦馬匹手入ノ如キ人少ク為臨時五名ノ
人夫ヲ雜役爲使用スル狀況ヲ呈ス

ニ衛生

一、隊兵健康ノ状態

本月間ニ於テ患者總數ハ名内新患トシテハ五名其他ハ旧患者ニシテ之ヲ前月比
 スニ總テニ於テ四名ヲ減セリ徒テ十分比例ニ於テ一日現在患者ハ前月比シ。七九ヲ減シ
 本月間ニ於テ平均百現在患者ハ二二九ニシテ一般ニ健康ノ状態ヲ維持シテアリ
 ニ葦菱ニ際シ取リタル衛生

事変ニ対シ殊ニ本月ハ中隊人馬ノ出入頻ハ頻繁ニ且リ一時ハ中隊全員ノ約三分二、
 出張者ヲ出シ徒テ諸勤務モ著シク敏化ヲ極メタリト虽モ之カ爲未タ一名ノ傷病者
 ヲ發セス而シテ兵員ノ出入ニ際シテハ常ニ充分ナル衛生ニ留意シ出張者ニテハ其
 都度强健ナルヲ選抜シ歸營ノ場合ニ於テハ一般ニ非衛生的地方ヲ通過シタルヲ
 以テ毎面健康診断ヲ施シ被服類ハ悉ク更衣セシメ苟モ全身違和ヲ訴フルモノハ別居
 セシム等可及的夏期防疫ニ對テ所置ヲ講セリ尙前月来内地門司地方ハ

陸

陸

コレレ病猫廠ヲ極テリ通報アルヲ以テ隊兵一級ハ衛生講話ヲ施行シ各自
衛生喚起ヲ計リ

三宿營地及兵舎ノ衛生状況

宿營地内ハ一級ニ清潔ヲ保持スル一前月ニ大差アリ只本月ハ比較的降雨曇天
多カリシヲ以テ兵舎内室床ノ濕潤ヲ顧慮シ兵舎各室ノ盥土爐ヲ焚カシメテ乾
燥ヲ計リ尚兼日ノ強降雨ニ際シ道路溝渠其他土橋等崩壞ヲ蒙リん
箇所又寡カラスシテ之カ堵復スル方大ニ勞力ヲ費シタリ

四氣象

本間ノ氣象ハ前月ニ比シ稍変動多ク降雨曇天又多カリキ平均気温ハ朝
ニ四・四度^華ニ度夕ニ七・三ニテ漸次下降ノ傾ヲ示セリ

三 經理

一 種稱事項

各地派遣討伐隊ハ凡テ戦時給與ニ據リ之カ爲獨立勤務ニ服ス部隊ハ分
任官ヲ置キ直買ヲ爲サシ小教ノ傳騎及監視兵又ハ一泊ニテ敵隊スルカ如キ
乍候ニ成ル可ク現品ヲ推乃行セシメ委任經理トナシ軍司令部及軍団司令部傳
騎ハ總テ營外食トシテ代金ヲ交附シ中隊ニ在ルモノハ一隊委任經理トス

二 破服事項

破服ハ總テ整理ノ域ニ在リト虽モ討伐部隊ニ配屬ス者ハ勤務激甚ト所々轉
勤ヲオスマテ修理實行ノ術ナリ破綻損瘵ニ故タモノヲキ旨報告アリ殊ニ長
靴ニホテ然リ教日前足達支隊ニ屬ス野村小隊ニ破服交代ヲ行ヘリ

四 駐屯地方現況

一 宿駐屯地ハ京城ノ外ニ孤立シ特ニ京城附近ヲ人心穩テラス憲兵警備等ヲ注

目_レ往十里_ハ僅_カニ二十_ニ米_ヲ突_ラ隔_テ立_ラ以_テ大_ニ警_戒ヲ加_ヘ夕_ヲ耶_サ蘇_ガ放_テ徒_ノ路_傍
 漢_ノ説_ハ隣_ノ村_ニ水_ヲ鉄_ノ里_ニ施_シ行_シタル_モ當_地ニ_テ遂_ニ米_ヲタ_ラス_土人_ハ比_較的_ノ平_穩ニ_シテ
 軍_隊ニ_テ依_頼シ_テ業_務ニ_テ安_セリ

明治四十年九月十一日

騎_兵第_{十七}聯_隊第_三中_隊長_阿部_好輔


八月軍隊報告

一 軍隊勤務

八月八日より二十七日迄大湖(同興東南方三里)ニ於テ中隊ノ人員約
半數ノ交代ヲ以テ游泳及水馬演習ヲ施行セリ其他警戒勤務
務ニ就テハ前月報告ノ状態ヲ其ノ保持續シ今日ニ及ヘリ

二 衛生

本月間傳染病トシテ腸窒扶斯一名ヲ出シ其他麻痢利亞四
拾三名胃腸病二十九名外傷十四名等主ナル疾患ニシテ患
者少キキラカレモ目下恐ルヘキ傳染病進襲ノ徴ナレ軍馬衛

野戰砲兵第九聯隊(同興) (第三夜)



生毛良好ニシテ十三日編入セル補充馬ノ状態モ良好ナリ

三、經理

前報ノ外訃ニキナシ

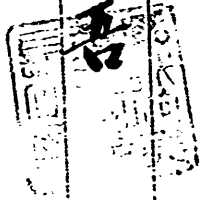
四、駐劄地方ノ現況

各地不穩ノ状況續々至ルモ當地ハ平穩ニシテ何等注意ス
ヘキ状況ヲ認メス

右及報告候也

明治四拾年九月三日

野戦砲大隊十九聯隊長 飛松寛吾



野戦砲兵第十九聯隊第三中隊 駐京城

明治四十年八月 軍隊報告

一 軍隊勤務

野砲手 下士一 兵卒三（廿八日以後ハ二）

風紀衛兵 上等兵一二 二等卒七

七月三十日午後七時三十分倭城臺放列地ハ増員ヲ

ナセシ 全員八六名夜ヲ徹シテ八月一日トナルヤ 情況漸次不

穩ナリトノ情報ニ接シ拂曉ヲ射撃準備ヲ整ヘタリ同日

午前八時頃ニ至リ大漢門方向ニ當リ時々銃聲ヲ聞

ケリ依テ高野少尉ヲ師團司令部ハ派遣シ余令

陸

軍

受領ノ任ニ當ラシメ電話ニ依リ絶ハス放列線トシ連絡
ヲ保タシメ射撃開始ノ命ヲ待テリ

亦殘留隊(屯營)ニ將校一其他若干ノ諸勤務者
並ニ砲兵護衛ノ歩兵下士以下ニ。ヲ殘置シ一層
警戒ヲ嚴シメタリ八月一日午前十時三十分頃屯營
ニ於テハ西小門内ノ韓國歩兵隊内不穩ノ情况アルヲ
偵知シ砲兵護衛ノ歩兵及砲兵ハ協力シテ西小門
守備ノ歩兵小隊ト連絡ヲ保チ數回ノ斥候ヲ放チ
韓國李統領大臣邸方位ニ敗退セシメ韓兵ヲ搜

索セシメタリ

本月二日至リ市内稍ヤ靜穩ニ復シタリ以テ放列

地ハ將校以下一七名ヲ殘置シ是レカ警戒ヲナサレメ其
 他ハ屯營ニ復皈セリ四日午後三時倭城臺放列地
 ニテリレ將校以下一七名及砲車ハ全部撤去シテ屯
 營ニ皈リ本月七日至リ市内靜謐トナリタルヲ以テ徒
 未砲兵隊護衛ノ為メ未營セシ歩兵ハ全部撤去
 セル同日以後ハ全ク平時ノ状態ニ復セリ
 本月二六日山砲四門編成ノ命令ヲ受領シ同日
 ヲリ韓國宮内府倉庫ヨリ砲車並ニ屬品ヲ受領シ
 三十日迄編成ニ從事セリ
 本月五ヨリ廿七日迄ハ厩舎炊事其他雜役勤
 務ニ服スルモノ四七名ニテ教練ニ從事スルモノ將校以下

陸

尾

毎日約五二名ナリ

二 衛生

衛生事項、関シテハ前月ト異を慶ナシ

本月中患者入院患者四、管内患者五乃至六

アリシモ漸次快復シ月末至リ入院患者二名ノ外

悉ク治愈セリ

三 經理

經理事項、関シテ前月ト異を慶ナシ

四 駐屯地方ノ現況

當駐屯地方ハ七月三十日夕ヨリ漸次不穩ノ情況

トナリ殊、本月一日午前八時頃函小門内韓國兵

官：騷擾事件アリタルモ同日夕刻以後ハ全ク鎮
 静シ騷擾ノ為メ一時商店ヲ閉カタルモノモ舊ニ復
 セルヲ見ル亦夜間ニ至テハ往來者極メテ僅少トナリタル
 京義街道ニ漸次往來者増加シ當駐屯地附
 近ハ一般ニ全ク平穩トナレリ
 右及報告候也

明治四十年九月 日

駐屯地長 官村九三郎
 官村九三郎

八月軍隊報告

一 軍隊勤務

工兵第十三大隊 (會章)

一 大隊(第一中隊)ハ輸城鏡城間輕便鐵道工事ヲ續行中ナリカ
 第二中隊ハ康徳場店ヨリ鏡城間路盤工事並橋梁作業完
 成去ル七日會章ニ返還シ目下甬門江ニ於テ架橋演習中ナリ
 二 第三中隊ハ輸城康徳場店間路盤工事及全部軌條ノ敷
 設ヲ完了シ去ル二十五日會章ニ返着セリ
 三 清津會章間輕鐵保線ノ為メ分遣將校以下人員前報
 告ニ全シ又去ル二十日ヨリ許山洞ニ上等兵一卒五名ヲ差遣シ保線
 隊長指揮下ニ増加シ新敷設線路保線ニ任セシメタリ

四 本月ヨリ大隊彈藥庫衛兵ヲ復哨トシ夜間巡視ヲ嚴重ニ勵行セ
シメ非常警備ニ備ヘアリ

二 衛生

一 當大隊本月間衛生成績ハ概シテ良好ニシテ新患者十八名前月比
テ五名ノ多キヲ見ルニ多ク疾病トシテ認ルルモノナク其主ナルモノハ外傷
之レニ由リハ胃腸病ト其一般症狀ハ輕症ニテ入院ヲ要セルモノ
一名アリモ一旬間ヲ出テスレテ治癒退院セリ

二 輕鐵作業トシテ出張中ノ二中隊ハ業務完了ノ結果本月敵
隊ヨリ韓人家屋ニカ宿セリ宿舎ハ一般清潔ヲ保テシ給養兵
衣等亦遺憾ナシ其他排水除穢勵行セリ宿營地内衛生狀
況佳良ナリ

三. 經理

一 地方經濟一般狀況 当地方商業ノ狀況ハ前月ト畧々同一ニシテ

金融モ隨テ緩慢ノ狀能ハアルカ如シ

當地方流通ノ一團以下示札(五ノ券ハ未ダ發行ナシ)ハ補助債ト交換ノ爲メ本年

四月以來其効ニテ回收セシ結果一時ハ金融ニ不足ヲ告ケシモ去月以

來幾分補助債廻送アリテ計臨時測量班ニテ數万圓ノ補助

債ヲ携行シ來リ各地ニ流通セシ爲メ目下當地ニ集リ來リ補助

債ハ金融ニ溢ルルノ狀況ナラモ小硬債(五ノ券)ハ殆ント皆無姿

ニシテ金融上甚々困難ヲ感心セシ爲メ其旨鏡城支金庫ニ通告

シテ金融ノ救済ヲ求メタリ

二 給養 前月報告ト畧々同一ナリ

四、駐紮地方ノ現況

一、土民一般ニ安堵其業ニ従事シ直毛モ不穩ノ情況ヲ認メス

二、近來郡守ヲ督勵シ大清潔法ヲ施行セシメ漸次良好ノ結果ヲ

見ルニ至レリ

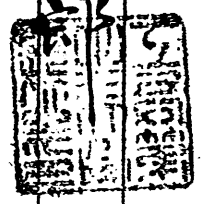
三、目下中疫流行セシトスルノ兆アル等々商ノ土民ハ生計ヲ購賣シ水

ヲ逐次多數トナレリ

右及報告候也

明治四十年九月二日

工兵第十大隊長石岡猪四郎



工兵第十三大隊第一中隊(京城駐屯)

八月軍隊報告

一 軍隊勤務

(一) 中隊ハ引續キ敬言備ノ任ニアリシガ地方ノ暴徒鎮壓ノ爲メ各地ニ左ノ討伐隊ヲ出ス

一 八月七日將校以下十四名下林支隊ニ被屬原州方面ニテ今尚暴徒鎮定ニ從事中

二 八月十一日將校以下十四名歩兵第十四聯隊ニ被屬江華島暴徒鎮壓ニ從事シ十三日歸隊

三 八月十七日下士以下十一名電線修理及護衛ヲ兼テ地方情況



視察ヲ爲メ利川方向ニ派遣シタルニ十九日夜利川ヨリ南方約
二里ノ地矣ニ於テ優勢ナル暴徒ノ急襲ヲ受ケタルモ我ニ損害ナク
八名ハ二十一日三名ハ二十三日何レモ無事歸隊セリ

四月十八日將校以下四十一名忠州方面討伐隊ニ屬セシ目下全地
附近ニテ該勤務ニ服シツアリ

五月廿二日上等兵以下五名歩兵第五十二聯隊明石中隊ニ配屬シ
楊根附近ニ於テ討伐ニ從事中

二營内ニ残留スルモノハ日々屯營附近ニ於テ各種演習ヲ實施シツアリ
一 衛生

(一) 營内ノ清潔法ニ関シテ前報告ヲ通り

(二) 中隊附軍醫討伐隊ニ從軍セラレテ患者ノ診斷ハ病院附

軍醫屬ニ囑ヒセリ

(三) 目下一日平均患者四ヲ有スルモ患者ノ多クハ林拉利亞ニシテ前月ニ比シ大ニ其數ヲ減ジタリ

一 經理

(一) 糧食、菓菜調辨ニ関シテハ着床後日尚殘ク調年上多少ノ不便ヲ感ズルモ着々是レガ良方法ヲ講ジツナリ

(二) 被服前報告ノ通り目下夏季用被服ニテ漸次冬期ニ向ヒ冬期用被服ノ必要ヲ感ズルニ依リ目下是レガ取寄、計畫中ナリ

一 地方ノ現況

八月一日南大門附近ニル韓兵暴動ヲ起セシテ以テ我歩兵第五十一聯隊第三大隊ハ是ガ鎮壓ノ爲メ午前九時三十分ヨリ行動

ラ起シ我工兵ノ一部(將校以下十名)之ニ屬セシ約二時間激烈ナル市街戦ヲ開キ十一時四十分我軍之レヲ占領セリ

此戦鬪ニ於テ我工兵ノ負傷者及消耗彈藥左ノ如シ

一、負傷者 卒二名(外稍重傷一名 輕傷一名)

二、消耗彈藥 三百五十發

三、全黃色藥 一尅六百丸

其後靜穩ニ歸セリ

右及報告候也

明治四十年九月五日

工兵第十三大隊第一中隊長今村外次郎(今村)

輜重兵第十三大隊 (成増駐屯)

軍隊報告 (八月分)

一 軍隊勤務

教育本月ハ降雨多ク為ノニ豫定ノ進歩ヲナス不能殊ニ目下部隊教練時期ナレトモ城川江河原満水ノ為ノ唯一練兵場ヲ失ヒ教育上ノ不便尠カラス

十日ヨリ二十四日迄西湖津ニ於テ水馬及游泳演習ヲ施行セリ日々午前ハ教練午後ハ水馬及游泳演習ヲ行ヒ中途ニ於テ残留員ヲ交代セシメタリト雖十七日以後ハ連日降雨ノ為演習ヲ得ケラレタルコト多シ

三日軍經理部長當隊ヲ視察セラレ

行前隊

二十七日工兵第十三大隊ヨリ馬匹取扱勤務習得、為兵卒
 七名派遣セシ付教官ヲ附シ直ニ教育ヲ開始セリ
 内地師團ニ轉補キシ少尉小出武一ニ龍二、八月八日出
 發シ新ニ轉入キシ中尉齋藤妻少尉塩谷慶吉、世
 中着任セリ

二衛生

本月間ニ於ケル患者統計三十三名ニシテ一日平均現在患者ハ
 九、六ナリ先月ニ比シ増加セリ此不成績ハ一ニ麻刺利亞患者、
 續發ヒシニ依ル之レカ豫防法ニ就テハ一層注意ヲ拂ヒツ、アレ
 トモ未タ減スルニ至ラス

水馬演習出張中、宿舎トシテ韓人家屋ヲ使用シ清潔法
ヲ勵行セシテ以テ衛生成績頗ル佳良三名ノ麻刺利亞患
者ヲ發セシム爾後人馬共ニ健康ノ度ヲ増加セリ

三 經理

馬糧中藁目下當地方ニ於テ闕乏シ殊ニ水馬演習出張
中、附近ノ村落ヨリ徵集セシト雖尚ホ不足ヲ告ケ麦稈ヲ
以テ代用セリ

四 駐劄地方現況

應急準備ヲ完成シ宿營地内外ニハ巡察將校及潛

行斥候ヲ出シ警戒シアルトモ何等不穩ノ兆候ヲ認メズ咸
興鎮衛隊ノ解散後モ平穩舊ノ如シ
右及報告候也

明治四十年九月三日

輜重兵第十大隊長久米猪一